

1人1台端末の活用による実践事例

(特別支援学校)

学校名	岡山県立岡山支援学校	実践者名	中谷 幸希
実践場面 (教科、領域、行事等)	国語 自立活動 校内研修		
単元・題材名	「言葉の使い方」(国語) 「コミュニケーション手段の選択と活用」(自立活動) 「ケーススタディ」(校内研修)		
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使えるようになるとともに、人と関わりの中で伝え合うことができる。(国語) タブレット端末を使用して、要求を伝えたり、簡単な挨拶をしたりすることができる。(自立活動) 視線入力装置を活用し自分の意思を伝える。(自立活動) ICT 機器を活用した授業実践の取り組みを紹介し、講師より助言をもらうことにより、今後の実践研究に活かす。(校内研修) 		
対象の児童 生徒の実態	肢体不自由 小学部5年生 中学部3年生 高等部2年生		

活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する

● 児童・生徒の実践

①小学部5年生「国語」

使用アプリ:「わかるもん!!」

イラストの名称をひらがなを並びかえて、身のまわりの言葉を知る。



②中学部3年生「自立活動」

使用アプリ:「しゃべるんです。」

コミュニケーション手段として、タブレット端末を使用して近くにいる先生に要求を伝える。



③高等部2年生「自立活動」

使用機器:視線入力装置

絵のマッチング…表示された絵カードと同じ絵カードを視線で選ぶ。対戦ぬりえ、風船割…余暇活動を充実させる。



● 校内研修 ケーススタディ

福島 勇先生

(熊本高等専門学校特命教授・できわかクリエイターズ理事・元 福島市立今津特別支援学校教諭)に児童、生徒の実践を動画やオンラインで見いただき、アドバイスをもらう。



活用のポイント・改善策等

・ ケーススタディで福島先生よりアドバイス

- ①教室移動中も GIGA 端末を持ち歩き、アプリ「ごじゅーおん」で教師と一緒に確認するとよい。
- ②カテゴリーを細分化して煩雑になった場合は、カテゴリー内に別カテゴリーのリンクを貼れば解決する。
- ③絵カードを大きくして見やすくする。